

# ロシアはウクライナに対する 侵略をただちに中止せよ 6・21ロシア大使館前行動の 案内

よびかけ：日本平和委員会 日本  
AALA 連帯委員会



映画「マリウポリの20日間」は、ロシアがウクライナに対して侵略を開始してから20日間、苛烈なロシア軍の攻撃を受けたマリウポリに止まって、その攻撃の実態を撮影し続けたジャーナリストの記録です。その生々しい記録の映像は、ロシアがいかに無差別の住民虐殺をくり広げてきたかを、何よりも明確に示しています。このような無法で残虐な侵略戦争を決して許すわけにはいきません。

ロシアのプーチン大統領は、6月14日、「和平」の条件として、ウクライナ東部4州の放棄などを一方的に要求しました。一方、ウクライナは92カ国、8機関が参

加した「ウクライナ平和サミット」を開き、ザポリジエ原発からのロシア軍の撤退と、ウクライナ占領地域で拉致した子どもとすべての戦争捕虜の解放を要求。「和平達成にはすべての当事者の関与と対話が不可欠だ」との声明を採択しました。

対ドイツ戦勝79年を祝う軍事パレードの演説でも、プーチン大統領は「何者にもロシアを脅かすことは許さない。戦略部隊は常に戦闘準備ができている」と、核戦略部隊の存在を誇示しました。このような核兵器使用による威嚇をくり返しながら、無法な侵略を続けるロシア・プーチン政権の姿勢は、厳しく批判されなければなりません。

ロシアはただちにウクライナへの侵略と無差別攻撃を中止すべきです。私たちは世界の人々と共に、「核兵器使うな、国連憲章守れ、侵略止めよ」の声をあげ続け、ロシアを包囲しながら、一刻も早い停戦を求めるものです。どなたでも参加できます。

●とき：6月21日（金）11時～11時30分

（雨天中止） ※連絡先＝日本平和委員会  
（電話 03-3451-6377）

◎場所：ロシア大使館前（大使館近くの飯倉交差点）

※毎月第1、第3金曜日の同時刻に、抗議行動を行っています。